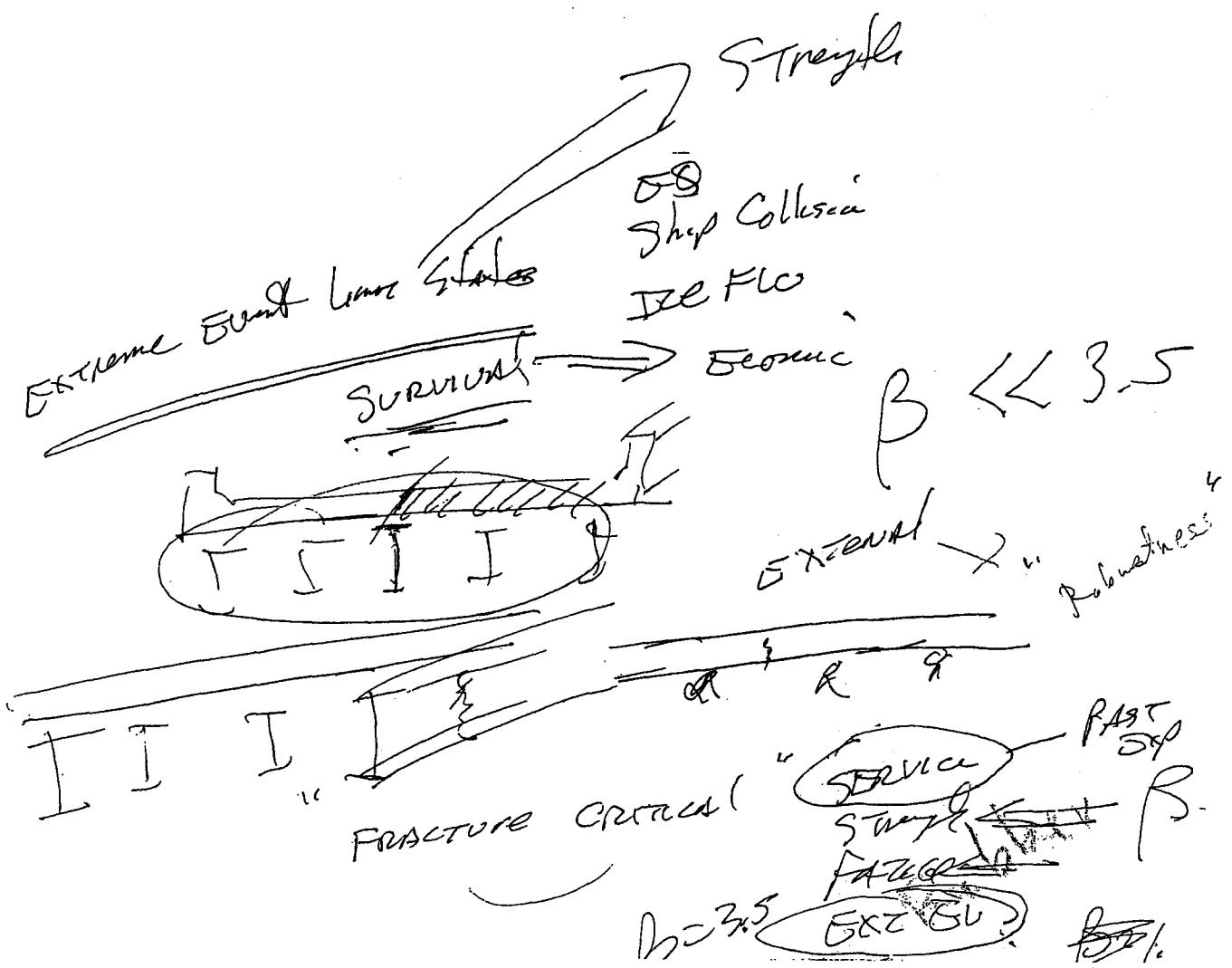
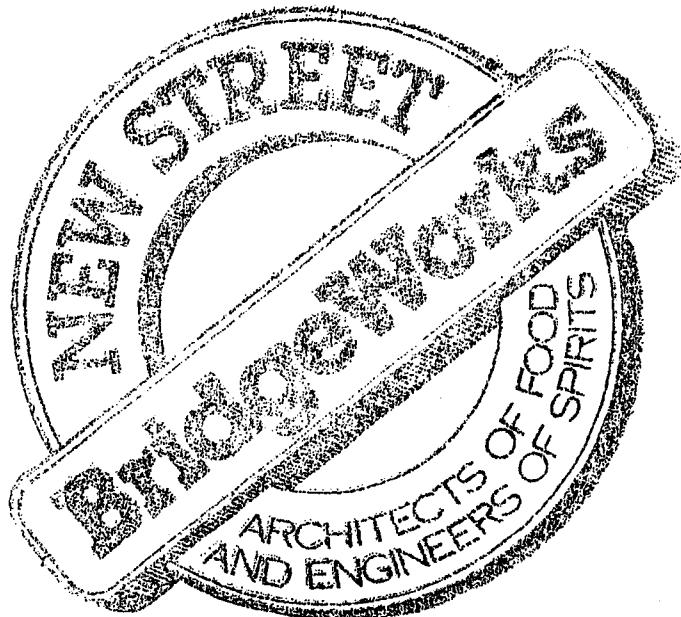


第3編

海外規準の改訂と国際化の動向

Discussion with Dr. J. M. Kulicki (Modjeski and Masters, Inc.)



目 次

1 はじめに	3-1
2 欧州編	3-2
2.1 Eurocode の背景	3-2
2.2 Eurocode 利用の便益	3-4
2.3 国内標準/Eurocode の策定体制と国の関与	3-5
2.3.1 策定体制	3-5
2.3.2 国の関与	3-5
2.4 Eurocode の形態とその移行プロセス	3-7
2.4.1 Eurocode のフォーマット	3-7
2.4.2 Eurocode の移行プロセス	3-8
2.4.3 パッケージ化	3-9
2.4.4 キャリブレーション	3-12
2.5 EN 化における課題	3-13
2.5.1 Eurocode の調和	3-13
2.5.2 Eurocode 導入に向けた教育	3-14
2.5.3 Eurocode の維持管理	3-16
2.6 ISO 規格への対応	3-16
2.7 付録	3-17
3 北米編	3-19
3.1 カナダの技術標準と国際化	3-19
3.1.1 設計法の現状	3-19
3.1.2 国際化への対応	3-22
3.1.3 質問的回答	3-22
3.2 アメリカの技術標準と国際化	3-23
3.2.1 設計法の現状	3-23
3.2.2 国際化への対応	3-31
3.2.3 質問的回答	3-32
3.3 Williamsburg Bridge の補修工事	3-34
3.4 リーハイ大学訪問	3-45
3.4.1 概要	3-45
3.4.2 リーハイ大学での鋼橋に関する主な研究	3-45
3.4.3 AASHTO LRFD に関する質疑応答	3-48
3.5 付録	3-49